







## はじまりの地 ヤマトを歩く

日本史では3世紀後半から7世紀前半は古墳時代とされており、三宅町では5世紀後半から6世紀前半にかけて、多くの前方後円墳が築造されました。

### 伴堂東遺跡

平成11年、京奈和自動車道建設に伴い、三宅町伴堂東側で発掘調査が行われ発見された遺跡です。この場所の開発がはじまったのは古墳時代はじめ頃からとみられ、この時代の墓の跡と土器の出土する穴や川の跡が見つかります。



土坑出土土器(東海系)



土坑出土土器(大和系)



人物埴輪(椅子にすわる男性)  
(現物は奈良県立橿原考古学研究所附属博物館に展示)

開館状況は下記へお問い合わせください。  
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館 ☎ 0744-24-1185

### 石見遺跡

遺跡は三宅町石見小字玉子の、寺川の左岸沿いの平坦地に造られた古墳ですが、すでに墳丘は削平されています。本来は、全長35m以上の前方後円墳と考えられており、人物埴輪をはじめ、馬形埴輪、鹿形埴輪、石見型盾形埴輪や多数の木製品等が出土しました。



石見型盾形埴輪(儀仗形)

(写真提供:奈良県立橿原考古学研究所附属博物館)

### 三河遺跡(三河古墳群)

京奈和自動車道三宅IC周辺に広がる、弥生時代から中世にいたる複合遺跡です。その中で古墳時代後期の円墳2基、方墳3基が確認されており、この一群を三河古墳群と称します。特に、全国的に珍しい二重の周濠を有する円墳(三河3号墳)が確認されており、出土遺物から5世紀後半と推定されます。また、奈良時代の筆立付円面硯も出土し、周辺に官衛的性格を持つ遺跡の存在をうかがうことができます。



三河3号墳  
(写真提供:奈良県立橿原考古学研究所)



筆立付円面硯  
(レプリカ:三宅町文化ホールに展示)

### 14 瓢箪山古墳

三宅古墳群に属する前方後円墳で、これまでの調査結果から、全長40m、築造時期は6世紀前半であることが分かりました。周濠からは円筒埴輪や様々な形象埴輪が出土しており、特に犬形埴輪は、額から鼻先にかけて綾杉文状の線刻が描かれているのが特徴で、このような例は今まで見つかっていません。



犬形埴輪



犬形埴輪  
(三宅町文化ホールに展示)



## 三宅古墳群と「倭屯倉」

三宅古墳群は磯城郡3町(三宅・川西・田原本)にかけて広がり、5世紀後半から6世紀前半にその最盛期を迎える古墳群です。前方後円墳を中心に現状18基で構成されていますが、既に消滅してしまった古墳も存在するため、本来はもっと多くあったと想定されます。

三宅町一帯は『記・紀』に垂仁・景行天皇期に直轄地として設置されたと言われる「倭屯倉」の想定地であることから、何らかの関係性が指摘されている古墳群です。そのため、古墳時代中期以降の奈良盆地内における政治・支配体制を知る上でも重要な遺跡として注目されています。



10 茄子塚古墳



11 寺の前古墳



13 アンノ山古墳



14 瓢箪山古墳



## 「あざさ」夏野の恋歌を歩く

奈良盆地の平坦部で唯一詠まれた万葉歌で、今も変わらぬ「恋心」と「子を想う親心」が詠まれており、当時の情景を想い浮かべる事が出来る恋歌です。



【訳文】  
三宅の原を通り、  
地面を一步一步踏みしめ、  
腰まで生い茂った  
深い夏草をかき分けて、  
いったいどんな娘のために  
通っているのかね、我が子よ。  
本当にね、  
そうでしょうともよ、  
父さんも母さんも  
知らないでしょう。  
豊かな黒髪に木綿で  
あざさを結いたらし、  
大和産の黄楊の櫛で  
抑え挿している  
美しい娘、  
それが私の愛する妻です。  
両親にも知らせぬ妻のために、  
夏野の茂った草に  
苦勞して通うことだ。



### 3 万葉歌碑の周辺の見どころ

『万葉集』は7世紀と8世紀に生きた人々の歌、4500余首が収められ、20巻から成る歌集です。万葉歌碑は平成8年(1996)3月、万葉学者犬養孝氏の揮毫によって言葉の文化財として建立されました。

### 3 5 7 15 あざさ開花場所

万葉集に歌われた「あざさ」は、5月初旬から10月頃にかけて黄色の花を咲かせる多年生水草です。5枚ある花卉の周りにはレース状の襞が多数あり、早朝に咲き屋頃に萎むうえ、朝の気温が20度以上にならないと見る事が難しく「幻の花」とも言われています。



### 願い事が叶う西国三十三観音石像

(伴堂・融観寺)

人と人をつ結びつける不思議な魅力のある三宅の原。素敵なお人に出会えますように…  
ご縁あって、この太子道を歩きかう方々の安全と幸せをお祈り申し上げます。



### 15 「音の風景」ベルモニュメント

ベルモニュメントは「愛」と「幸せ」の響きが、人々の心に届くようにと願いを込めました。  
♥1回目は自分の身を清め、♥2回目は相手の心と呼び、♥3回目は2人の愛を誓います。恋のおまじないなので慌てずゆっくり鳴らしてください。



## 聖徳太子の足跡! 現存する太子道を歩く

飛鳥時代に聖徳太子が斑鳩宮から飛鳥の小墾田宮へ、お供の調子廬を従え、愛馬黒駒に乗って通われたという伝承があり、その道を「太子道」と呼んでいます。



現在も使われている太子道(赤線の道)



### 8 屏風杵築神社

境内には聖徳太子が従者の矢で掘ったと伝えられる「屏風の清水」があります。拝殿には「おかげ踊り」の絵馬が奉納されています。〈安永6年(1777)9月奉納〉文化財の指定を受けています。



### 太子道(伴堂・融観寺前)



### 9 黒駒に乗る太子像(白山神社)

太子を偲び昭和5年(1930)この地に聖徳太子が愛馬黒駒にまたがり、屏風を往来される「黒駒に乗る太子銅像」が建立されました。

(銅像は第二次大戦中、金属類の献納で取りはずされ台座のみ残されています。)現在の像は平成24年(2012)11月に再建されました。



### 9 腰掛石(白山神社)

聖徳太子が太子道を往来され、この地で休息された時に腰を掛けられたと伝わる石です。

1913~1917年頃に制作された野球用グローブ・ミットです。



2021年に野球グローブ生産100周年を迎えます。

## 三宅町の野球グローブ・ミットの歴史

| 1921 (大正10年)                                                                                                                                                             | 1956 (昭和31年)             | 1970 (昭和45年)                                                                                                  | 1971,1973 (昭和46、48年)                                                                      | 2016 (平成28年)                                                                                                                        | 2018 (平成30年)                                       | 2020(令和2年)                                                                                                     |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 三宅町において、最初にグローブの生産を行ったのは、大正10年2月頃に坂下徳治郎さん達によって始まったとされています。昭和に入り終戦以降、野球が日本の国民的なスポーツとして発展していく中で、グローブ・ミット用具の要望が増えるに従って、戦前より三宅町で皮革を扱う職人として技術を習得していた人達が独立してグローブ・ミットの生産を始めました。 | 昭和31年からは本格的に対米輸出が始まりました。 | 昭和45年の最盛期には587万個ものグローブ・ミットが輸出されるようになりました。そして、それにもない生産業者数も飛躍的に増加し、三宅町を中心に桜井市、河合町が主産地となって全国生産量の90%を占めるようになりました。 | その後、昭和46年、48年の二度にわたる通貨調整により輸出が大打撃を受けるとともに、韓国、台湾などで生産される安いグローブ・ミットの輸出におされ、国内生産量が著しく減少しました。 | 知って得する「ふるさと納税」。寄付のお礼として贈る「返礼品」の一つに野球グローブが、平成28年4月より全国から注目を集めています。10月21日奈良テレビ放送、ならフライデー9「ビジット奈良」で〜県内で一番小さな町はスポーツ用品の一大生産地〜として紹介されました。 | 朝日放送テレビ岩本アナウンサーモデル軟式元阪神タイガース関本選手モデル・軟式100周年ロゴマーク制定 | 最盛期は100軒ほど、現在も20軒近くの業者が存在しています。今日では特別注文品の受注が増えてきており、上級品の製造、小回りの効く生産体制に移行しています。令和2年1月20日、NHK「鶴瓶の家族に乾杯」で紹介されました。 |



## 救済に捧げた生涯〜忍性菩薩

忍性さんの「福祉と和の心」を表すシンボル「折り鶴」三宅町の心の原点としていつまでも伝えていきたい。



忍性菩薩坐像(三宅町 浄土寺に安置)

良観房忍性さんは、鎌倉時代の高僧で、建保5年(1217)現在の三宅町屏風に生まれました。生涯を病者や社会的弱者の救済・道路・橋の修復などに尽力し、多大の足跡を残したことから、我が国の社会福祉事業の先駆者ともいわれています。没後、その功績が認められ、後醍醐天皇より「菩薩」号が贈られました。



### 7 忍性菩薩御誕生之地石碑

郷土の偉人「忍性菩薩」が没後700年を迎える平成15年(2003)に向けて、平成13年5月、ゆかりの地屏風に石碑が建立されました。敷地には忍性菩薩の功績を讃えた「顕彰碑文」も設置されました。



### 忍性さん〜笑顔のお坊さん〜

発行人:藤田 能宏住職  
浄土寺 ☎0745-43-1441  
今日では「忍性さんの会」が設立され、忍性さんの福祉の心を伝える事業の取組みが行われています。  
窓口:三宅町商工会 ☎0745-44-4628

忍性さんは嘉元元年(1303)に87年の生涯を鎌倉「極楽寺」で閉じました。その遺骨は遺言によって、ゆかりの極楽寺(鎌倉市)・竹林寺(生駒市)・額安寺(大和郡山市)に分骨されています。



### 〜未来へつなげる 匠の技術〜 GLOVE TOWN MIYAKE 2021

工場の情報が満載のアカウント名は、ツイッター、インスタグラム共通です。「グローブの町みやけ【100周年】」  
お問合せ:三宅町役場 産業管理課 ☎0745-44-3076



ツイッターQRコード▲